



議長	局長

会派調査(研修)報告書

NO. 1

令和1年11月19日

胎内市議会議長

薄田 智 様

(報告者) 会派名 日本共産党胎内市議団

代表者名 丸山孝博

調査・研修参加者 丸山孝博

羽田野孝子

(志政会と合同)

会派調査(研修)について、下記のとおり報告します。

調査・ 日時	自 令和1年11月11日 至 令和1年11月13日 2泊3日(3日間) (別紙 日程表参照)	調査・研修 場 所	島根県美郷町 岡山県井原市 岡山県笠岡市
調査・研修 事 項	・島根県美郷町 ①定住促進・田園回帰の取り組みについて ②山くじらブランド化の取り組みについて ・岡山県井原市議会の議会改革について ・岡山県笠岡市の認知症サポート事業について		
調査・研修 出席者(参加者)	今回の調査研修は、志政会と合同によるものである。 参加会派及び人数は、以下のとおり。 日本共産党胎内市議団2名、志政会1名 合計3名		
相手方(対応者)	・島根県美郷町 佐竹一夫議長、高橋武司美郷暮らし推進課長、安田亮山くじら推進課長、 漆谷和彦議会事務局長 ・岡山県井原市議会		
相手方(対応者)	坊野公治議長、宮地俊則議会運営委員長、西村慎次郎議会運営副委員長、 宮良人議会事務局長、藤原靖和議会事務局次長 ・岡山県笠岡市 栗尾順三議長、山本英司健康福祉部長寿支援課長		

調査の結果または概要

●島根県美郷町

島根県のほぼ中央に位置し、広島県から島根県にかけて流れる江の川の中流域にあり、平成16年10月1日、邑智町と大和町が合併し誕生した町で、「水と緑 いきいき輝く 夢あふれる協働のまち」基本理念にしたまちづくりを推進している。人口4,619人、高齢化率47.2% (9/30)。人口10万人当りの100歳以上人口日本一。面積282.92km²。一般会計当初予算額74億3,200万円である。

◎定住促進・田園回帰の取り組みについて

島根県で一番の人口減少と高齢化率となり、このままでは大変だということで平成18年に若者定住子育てライフ「5つ星の町」の展開。定住・UIターン支援、無料職業紹介所の設置、空き家利活用推進事業、保育料の軽減など子育て支援、地域おこし協力隊制度などを紹介した「定住支援ガイド」を作成している。その結果、転入者増加に転じた自治体である。

◎山くじらブランド化の取り組みについて

狩猟者が捕獲したい時期である「冬」と、農業者が捕獲してほしい時期である「夏」のミスマッチを解消する仕組みを作った。また、元々地域にあった縫製技術を持った女性たちと連携し、イノシシの革製品の製作も行うなど、捕ったイノシシを使い尽くすビジネスモデルをつくったことで注目を集め、昨年度は約80件700人余の視察があった。

●岡山県井原市

岡山県の西南部に位置し、西は広島県に接している。人口41,390人。(27年国調)面積243.54km²。平成17年3月1日芳井町と美里町を吸収合併した。一般会計当初予算額229億9,800万円である。議員定数は20人(現議員数19人)

◎議会改革について

①本会議場の生中継についての経緯と効果について ②市民の声を聴く会の取り組みについて ③市当局への政策提言の取り組みについて

●岡山県笠岡市

岡山県の南西部に位置し、西は広島県福山市と接している。人口48,407人(31/4/1)面積136.24km²。一般会計当初予算額231億7,095万円。瀬戸内海に面し、30の島があり内7島が有人の笠岡諸島を有している。平成2年には、広大な笠岡湾干拓地(1,811ha)が完成し、畜産、野菜の露地栽培、花きなどの施設栽培が大規模に行われている。

◎認知症サポート事業の取り組みについて

要介護者の4割が認知症といわれるなかで、高齢者福祉推進計画・介護保険事業計画(令和1年11月12日)のなかで、現状分析したうえで、①認知症相談支援について ②地域での見守り支援についての計画を推進している。

調査の所見・感想

●島根県美郷町

◎定住促進・田園回帰の取り組みについて

特徴的な取り組みとして、「産業・雇用・企業支援」を一体とした各種の助成金制度やUI ターン者向け定住支援住宅として、月額3万円の家賃で貸出。20年住めば住宅を無償譲渡、25年住めば更に宅地を無償譲渡する制度で定住促進を図っている。また、保育料や学校給食費などの軽減による子育て支援を積極的に行っている。

美郷町は、県内で一番の人口減少と高齢化率の町から、若者と子どもたちを育てることを重点に掲げ、成果も徐々に出てきており近年、子ども数が減っておらず、県内市町村のなかで一番子どもが減らない町になったのである。

これは雇用の場を増やし、若者が住みやすい住宅の整備などに力を注いできた結果であり、胎内市でも取り入れる政策として、大いに参考となった取り組みである。

◎山くじらブランド化の取り組みについて

獣害駆除したイノシシの肉を「山くじら」と呼び、地域資源化に成功している事例である。美郷町は、今年度から「山くじらブランド推進課」を新設し、獣害を逆手に取って地域資源として活用した取り組みをさらに強化している。精肉や缶詰加工を手掛ける民間会社が事業拡大を目指し、新設備を進めているほか、ふるさと納税の返礼品としても人気を集め寄付額増に寄与している。

また、地域の婦人会のメンバーを中心にイノシシ皮革製品の加工に取り組む「青空クラフト」や山くじらを食材として提供する飲食店など、産業として厚みをつけているのが特徴である。里山ビジネスとしては、有効な取り組みであり地域振興策として参考になる事業である。

●岡山県井原市

◎議会改革について

①本会議場の生中継についての経緯と効果については、昭和58年9月定例会からケーブルテレビ（井原放送）による本会議の録画中継を開始し、議場の操作室に井原放送の職員が入り中継・編集しており、市民の視聴率はかなり高いとのこと。地域の放送局を活用している点で、当市で実施することは困難ではあるが、地域に根差した議会活動として参考になった。

②市民の声を聴く会の取り組みについては、平成23年度から「開催要領」により実施しており、毎年13小学校区で各1回、議員が4班に分かれ地域の公民館で館長、自治会長

に協力依頼し、実施している。

参加者からの要望なども多く、活発な意見交換が行われているとのことである。また、これまで平均 415 人（1 会場平均 32 人）が参加していることには、毎回参加者が少ない当市議会としては驚くべき数字である。これは、地域の公民館長と自治会長が参加者を集めるため、積極的に努力してくれているということであった。こうした取り組みは、当市議会でも参考に今後、検討しなくてはならない課題である。

③市当局への政策提言の取り組みについては、市民の声を聴く会での市民からの意見を含めた各常任委員会の所管に属する事項すべての所管事務調査を対象として、議会から執行部へ政策提言する仕組みになっている。

常任委員会ごとにテーマを決め、調査研究を行い、その結果に基づいて政策提言の素案を作成する。その後、全員協議会で素案の説明及び意見交換を行い共通認識の醸成・合意形成を図る。それを踏まえて各常任委員会で成案を作成し、本会議で委員長が所管事務調査の報告を行い、議長から市長へ政策提言を行っている。昨年度は「赤ちゃんの駅事業」、今年度は「教育研究所（仮称）の設置、ICT 環境の充実」について提言している。この政策提言については、常任委員会の任期中に一つ程度あり、十分議論している点などが注目すべき取り組みであり、当議会としても今後、充実した委員会活動の一環として大変参考になる取り組みであった。

●岡山県笠岡市

◎認知症サポート事業の取り組みについて

①認知症相談支援について

認知症に対する対応は、避けて通れない課題であり、笠岡市では、その一つの事業として「おれんじドア事業」を実施し今年度から、認知症当事者、その家族の相談窓口を毎月開催。相談員は、年間 9 人（延）相談から地域の集まりの場への参加を目指しているが、若年性認知症の方の地域での受け入れ先と確保が困難なため、「認知症カフェ」を 1 か所開設した。また、平成 25 年度から、ひとり歩き SOS ネットワーク事業を開始し、認知症の方の行方が分からなくなった時に早期発見・早期保護のため情報配信を通じて、行方不明者の目撃情報の提供を市民に呼びかけるシステムが確立している。これまで 7 回の無事発見の実績がある。認知症サポーター養成講座では、年間 5,200 人の実績があり地域での担い手になっていること等は、学ぶべき参考になる事業である。